

# るのほな

千葉大学医学部同窓会報 第121号

題字 故 鈴木五郎 (大11卒 元るのほな同窓会長)

編集発行者  
 千葉大学医学部  
 るのほな同窓会報編集部  
 〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1  
 千葉大学医学部内  
 るのほな同窓会  
 電話 (043) 202-3750  
 FAX (043) 202-3753  
 e-mail:idosokai@med.m.chiba-u.ac.jp



医学部本館と附属病院の春影

**るのほな同窓会総会のお知らせ**

今年度のるのほな同窓会総会を左記により開催致します。同封の葉書にて出欠の返事をお送り下さい(6月15日必着)。

一、日時  
 平成11年6月26日(出) 午後3時より

一、場所  
 ベリエホール(千葉駅ビル5階)

☎043(227)1195

- 一、総会次第  
 会長挨拶  
 (1)会務報告  
 (2)議事  
 1 平成10年度決算承認の件  
 (イ)事業報告  
 (ロ)決算報告と決算処理案  
 2 平成11年度事業計画の件



## 附属病院長に山浦 晶教授(昭40卒)

平成11年3月31日をもって任期満了となった山浦晶前附属病院長は、引き続き再任されることが決定された。任期は本年4月1日より平成13年3月31日である。(挨拶文は11面に掲載)

- (イ)学外研究助成規定  
 (ロ)医学部学生用図書の特典助成  
 (ハ)名簿改訂  
 3 平成11年度予算(案)  
 4 会費改訂について  
 5 名誉会員の推薦について  
 6 その他  
 (3)報告事項  
 1 同窓会賞選考について  
 2 名簿作成進捗状況について  
 3 同窓会会報関係  
 るのほな同窓会賞表彰式および受賞者挨拶  
 午後4時より  
 懇親会  
 午後5時40分より、会費五千円(当日受付にて申し受けます)

## るのほな同窓会賞選考結果

- 功労賞授賞**  
 川崎富作(日本川崎病研究センター所長、小児科、千医大専昭23卒)  
 「川崎病の発見とその後の研究」
- 栗原 稔(昭和6大教授、消化器科、千大昭36卒)**  
 「がん薬物療法におけるQOL評価」
- 谷川久一(国際肝臓研究所所長、久留米大名誉教授、内科、千大昭32卒)**  
 「超微形態学を基にした

## 楊思勝君の絵画を 附属図書館へ 亥鼻分館へ

楊思勝君は昭和43年(1968)卒業後、同級生の林雅恵さんと結婚しニューヨークへ渡り、二人とも医師として活躍している。彼は、中国古典芸術、東方文化の研究を中断することなく、西洋絵画の色彩を大胆に中国山水画に取り入れ、著名な画家として活躍している。彼は多才多芸でピアノ、書道、篆刻、将棋、ワインなどに精通し、硯をはじめ、世界の有名



な芸術作品のコレクションに力を入れている、異才な同級生である。彼の作品と画集、アトリエを見た多くの同級生が、彼の絵画を「43卒30周年」にあたり是非母校に寄贈しようとして話しが持ち上がった。その意を伝えると、楊君は台湾での展覧会の帰途千葉に寄り、新病院・医学部・亥鼻分館の何処にどの様な絵を掛けたいかイメージしてNYに帰った。我々の卒業年にちなみ、三三學士雅集図(SCHOOL GATHERING BY THE RED CLIFF, 赤壁に集う43人の学識者)を完成させ、世界的オークション、サザビーズ・ニューヨークにかけ、無事落札出

カラーゲン架橋産物の質的および量的変化についての研究」

**下山恵美(千大助手、生理学第二、千大昭59卒)**  
 「がん性疼痛オピオイド療法における非オピオイド併用薬の開発」

**中野裕康(順天堂大助手、免疫学、千大昭59卒)**  
 「Tumor necrosis factor receptor super family」を介するNF-κB活性化メカニズムの解析」

この間、栗山・北原は亥鼻分館長嶋田教授と事務長に43卒の心意気として、寄贈を受けてくれるよう交渉し、分館長の英断により附属図書館亥鼻分館に展覧出来た。楊君の芸術家としての評価は高くニューヨークのみならず、中国、台湾、日本と全世界的なオークションでも絶賛されている。是非、亥鼻分館に立ち寄った際には、一階左側壁に掛けられている絵画を見て頂きたいと思う。

(北原 宏昭43)



# 辛亥革命記念碑

## 井出源四郎(昭和19年卒)

### 第一章

#### 記念碑の現況と碑文の全文

この記念碑(高さ228cm 82厚さ14)は亥鼻台の現在の医学部本館前庭の一隅に建てられている。(以前は道路沿いの松林の中にひそやかに建っていた。)このことについて知っておられる方が同窓会員の中でも意外に少いことを知り、一度記録に留めおくことの必要性を以前から感じていながら長い年月を過してしまつた。(十数年前に拓本をとることを医学部の事務長さんをお願いしたことがある)

偶々昨年夏、千葉県立衛生短大長の澤田勤也先生(昭28)から一通の書簡が送られてきた。中に「記念碑に見る辛亥革命」と題す



辛亥革命記念碑と井出源四郎先生

る原稿が同封されており、ある薬品会社の依頼によりその月刊誌に投稿したいと思うが如何なものか、若しよければ少し校正をして欲しいとのご要望であった。もとより私に異存のあろう筈もないし、記念碑についての詳しい知識も持ちあわせてはおりなかつたのでその旨をご返事したのであるが、寧ろそれにより触発され、「同窓会報のほな」に掲載させていただいてはとも考へ澤田先生と鈴木信夫編集長に相談したところ、会報には私が書くことがよろうとのお勧めもあつて筆をとることになつた次第である。

そこで改めて記念碑を訪ね、碑面を撫でながら目を

凝らして碑文を読みとろうとしたが、現在碑文は九十年の風雪に晒され殆ど読みとり得ないほどに傷んでしまつている。偶々私の手許に贈与された、日本大連会常任理事で中國事情に造詣深い大連医科大学卒業の長老である畏友園田信行先生の「日中科学人材交流百年史の教訓」という論文の中からお許しを得て、碑文の全文(原語とその訳文)をここに引用掲載させていただくこととした次第である。

以上本号には第一章として記念碑の現況と碑文の内容のみを掲載させていただき、次号に第二章としていささかの解説と私個人の感

### 記念碑

辛亥秋中華民國革命事起武漢南北軍戰爭甚烈  
 同學恐戰禍蔓延而傷亡之數多也乃集同志起紅  
 十字隊連合留學日醫學學生全體返國以圖極救  
 時本校校長乃列先生深慰斯議風聞於救傷看護  
 法悉心指導各學友復饋贖藥為贈臨岐毀毀益  
 資策勵同人返國分駐於湘漢江淮間傷兵頗利賴  
 之六閱月戰局告終藏事返校唯無善可紀而列先  
 生乃諸學友盛意弗可也爰種樹之碑以為紀念  
 其辭曰

王綱解紐 共和初建 國步艱難 兵戎數見  
 伏屍塞川 碧血膏野 哀此生民 誰大護者  
 壯三軍氣 紅十字旗 生死肉骨 極難扶危  
 緯列先生 亦越諸友 作則大同 濟世仁壽  
 人道張皇 德意傍肺 木石万年 永垂勿替  
 中華民國留學千葉醫學專門學校學生同建

懷を述べさせていただく考  
 えである。

### 碑文の全文

(王綱紐を解きてより(清  
 朝宣統皇帝の退位) 共和政  
 治が始めて打ち建てられ、  
 中華民國が出来たが、国歩  
 艱難、戦争は絶えず。伏屍  
 は川を塞ぎ、山野を血ぬら  
 せている。この人民の悲し  
 みは誰が護るのであろうか。  
 三軍を励ますのは赤十字の  
 旗、生死肉骨難を救い危機  
 を助ける。諸先生も学友達  
 も極めて公平で、平和な世  
 の中を願っている。世の中  
 に仁寿を致し、人道を広め、  
 徳意が盛んである。樹を植  
 え、碑を建てて万年永く讃  
 える。)

(土居申一訳)

# 教授就任挨拶

## 卒後・生涯医学臨床研修部

### 田邊 政裕 (昭49卒)



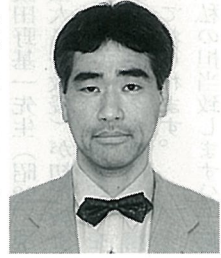
平成11年4月16日に若新  
 政史前教授の後任として卒  
 後・生涯医学臨床研修部の  
 教授を拝命しました。本研  
 修部は、地域の開業医や勤  
 務医の方々と卒直後の研  
 修医の臨床研修を組織的、  
 効率的に推進することを目  
 的として平成元年5月29日  
 に設置され、すでに10年を  
 経ております。その間、社  
 会の急激な変動と共に医療  
 を取り巻く環境も変化し、  
 それに対応した変革なしに  
 は千葉大学医学部あるいは  
 附属病院といえども生き残  
 れない状況になってしまし  
 ました。本研修部の目的もそ  
 のような状況の変化に依りて  
 多様化してきており、医師  
 の卒前から卒後、生涯教育  
 への一貫した医学教育、地  
 域医療、学際的な生涯教育、  
 教員教育等に対する貢献も  
 期待されております。

平成14年度より卒後臨床  
 研修の必修化が予定されて  
 おり、その行動目標達成の  
 ためには千葉大学医学部附  
 属病院において実施可能な  
 卒後臨床研修カリキュラム  
 を早急に作成する必要があります。  
 開業医、勤務医の  
 先生方の生涯医学教育に関  
 しては、本研修部開設以来  
 研修登録医制度が11年目を  
 迎えますが、今後この制度  
 をどのように発展させてい  
 べきか、研修を受ける側、  
 行う側双方のニーズを満た  
 す内容にしていく必要があ  
 ります。本研修部は、卒後・  
 生涯医学教育を目的として  
 設置された先駆的な部であ  
 り、今後この分野で本邦に  
 おいて先導的な役割をはた  
 し、さらに国際的な貢献も  
 出来る仕事をしたいと思  
 っております。関連病  
 院の先生方を含め、るのほ  
 な同窓会の先生方のご支援  
 とご協力を切にお願いす  
 る次第です。





### 浜松医科大学脳神経外科講座 難波宏樹(昭54卒)



平成11年4月1日付で浜松医科大学脳神経外科教室の教授を拝命致しました。先代の植村教授も本学出身であり、初代教授として21年間浜松医科大学脳神経外科の教授を勤められ、脳の電気生理学、高次脳機能、医学教育等の分野で優れたお仕事を残されています。私なりに精進し、二代目として初代の名を汚さぬようにしたいと思っています。

私は昭和54年、千葉大学医学部を卒業後、脳神経外科教室(当時、牧野博安教授)に入局し、最初の9年は山浦晶助教授(現脳神経外科教授)のもと、脳血管障害、頭部外傷などの救急医療を中心に勉強してき

ました。その間(昭和56年-昭和58年)、米国立衛生研究所のDr.Sokoloffのもとに留学する機会を与えられ、放射性化合物とオートラジオグラフィを用いた脳局所の血流量やぶどう糖利用率の定量的測定法を学んできました。この経験は現在の研究にも引き継がれており、私の研究経歴の原点になっていきます。その後の11年間は千葉県がんセンターにおいて末吉貫爾(現千葉がんセンター脳神経外科部長)と共同研究により「悪性グリオーマに対する遺伝子治療」の基礎研究を進めてきました。今後の臨床応用への発展を大いに期待しているところでです。一方では放射線医学総合研究所との共同研究により、放射性アセ

チルコリン類似物質とPositron Emission Computed Tomographyを用いたアルツハイマー病を中心とした痴呆性疾患における脳内コリン系神経機能の研究にも参与させていただきました。以上のように私の研究は他施設または他分野との共同研究がほとんどであり、このような先輩や仲間と出会うことができたことを大変幸運であったと思っております。

た。悪性グリオーマという強大な敵に対し、抗癌剤の動脈内投与など様々な戦略を駆使して戦いを挑んできましたが、残念ながら必ずしも良い結果を得ることができませんでした。そこで最近では千葉県がんセンター研究局(崎山樹研究部長、田川雅敏病理研究部長)との共同研究により「悪性グリオーマに対する遺伝子治療」の基礎研究を進めてきました。今後の臨床応用への発展を大いに期待しているところでです。一方では放射線医学総合研究所との共同研究により、放射性アセ

チルコリン類似物質とPositron Emission Computed Tomographyを用いたアルツハイマー病を中心とした痴呆性疾患における脳内コリン系神経機能の研究にも参与させていただきました。以上のように私の研究は他施設または他分野との共同研究がほとんどであり、このような先輩や仲間と出会うことができたことを大変幸運であったと思っております。

科医にならぬよう(つまり脳の外科医でなくメスも使うことのできる神経科学者となるよう)心がけてきました。それは夢のある研究や卓越した外科医を育てるという意味では必ずしも正しい在り方ではないかもしれませんが、私が医学部における研究のあるべき姿の一つであらうと思っています。

まだまだ若輩であり臨床も研究も途上の未熟者であります。これからも浜松医科大学脳神経外科教室の皆さんと共にさらに研鑽を積み、また他分野の方々と協力しながら、患者さんに還元できる研究を推し進めてゆきたいと考えています。また最近特に重要視されてきた学生教育や卒後研修にも力を尽くし、優れた人材を発掘し育ててゆければと思います。今後とも宜しくご指導ご鞭撻のほどお願い致します。

### 退官記念式典開かれる

平成11年3月で定年により千葉大学医学部の教壇を去られる藤村眞示教授(生化学第一)、近藤洋一郎教授(病理学第二)、米満博教授(臨床検査医学)および若新政史教授(卒後・生涯医学)の退官記念式典が、3月13日午後2時より、千葉大学医学部附属病院第一講堂において医学部主催により行われた。谷口克医学部

長、磯野可一学長、名誉教授代表渡辺昌平先生、同窓会長井出源四郎先生の挨拶のあと、同門代表は、西村明先生(生化学第一)、大久保春男先生(病理学第二)、中甫先生(臨床検査医学)、および成田光陽先生(卒後・生涯医学)の各先生からそれぞれ祝辞があり、つぎに謝辞が滝口正樹助教授(生化学第一) 秋草文四郎助教

授(病理学第二) 菅野治重講師(臨床検査医学)および上田志朗大学院薬学研究科教授(卒後・生涯医学)よりそれぞれ述べられた。記念品贈呈、花束贈呈のあと、退官される4名の先生が挨拶された。つづいて記念講演が飯田巨之先生(文学部教授)により「多義性の世界」と題し行われた。

その後、記念祝賀会が附属病院第三講堂で行われ、

当日の記念事業は滞りなく終了した。なお4先生による最終講義は、学生ほか学内外多数の方々出席の下、左記の演題で行われた。

「はじめのはじめ」  
近藤洋一郎教授  
「肝再生について」  
米満博教授  
「臨床検査の過去現在未来」  
若新政史教授  
「基底膜病の基本概念的提唱」  
若新政史教授

余る栄誉であります以上に、その重責と不安を押し潰されんばかりです。ただ精一杯頑張るしかない」と決意する次第です。



藤村眞示教授



近藤洋一郎教授



米満博教授



若新政史教授



金沢大学がん研究所分子薬理学研究分野  
大野博司(昭58卒)

平成11年4月1日付で金沢大学がん研究所分子薬理学研究分野の教授を拝命いたしました。私は昭和58年に本学医学部を卒業し、麻酔学教室にて4年間の臨床研修の後、昭和62年本学大学院医学研究科に入学致し

ました。平成3年大学院修了とともに医学部附属高次機能制御研究センター(現大学院医学系研究科高次機能系)の助手、次いで助教として8年間医学部に勤務いたしました。その間、半年間のドイツ留学および3年間のアメリカ留学も経験させていただきました。医学部入学から数えれば22年間、これまでの人生の半分以上の年月をこの地で過ごしたことになる訳で、この間に公私にわたりお世話になりました。この間は同窓会の諸先輩、同級生並びに後輩の皆様へ深く感謝申し上げます。このように第2の故郷、というよりむしろ、父の転勤のため高校までは3年以上続けて住んだ地が無い私にとりましてはまさしく故郷そのものであります。千葉を離れ、全くの未知の土地である金沢に教授として迎えられることは、身に余る栄誉であります以上に、その重責と不安を押し潰されんばかりです。ただ精一杯頑張るしかない」と決意する次第です。



ことなど、その沿革は千葉大学とよく似ております。金沢大学が研究所以しては唯一「がん研究」の名を冠する研究所であります。その前身は昭和15年に設置された金沢医科大学の結核研究施設に遡り、昭和17年には金沢医科大学附属結核研究所、昭和24年の金沢大学設立に伴い金沢大学付属の結核研究所となつています。昭和36年には医学部に附属癌研究施設が新設され、これが昭和42年に結核研究所と統合されて金沢大学が研究所となりました。その後、平成9年にはそれまでの10部門から3大部門および1センターへと改組し、現在の客員1を含む15研究分野の体制となりました。

この中には内科および外科の臨床2分野も含まれており、研究所附属病院においてがん治療を行っています。千葉大学医学部の先輩では波田野基一先生(昭23、現金大名誉教授)が初代教授としてウィルス研究部門を主宰され、その後所長も務めておられます。

私の担当致します分子生物学研究分野は、結核研究施設創設の祖、故岡本肇金大名誉教授(越村三郎金大名誉教授とともにOKI-432(ピシバニール)を開発)を初代とする、がん研究所で最も長い伝統を誇る研究室であり、私で5代目となります。しかしながら、教授公募要領にも「前任教授の研究分野にこだわらず、がん研究・分子細胞生物学の基礎分野で独創的研究を遂行され、意欲的な研究リーダー」とありましたように、研究所の方針は、教室の名前で縛ることなく自由に研究できるような環境を与えよう、というものと受け止めます。千葉大学医学部在職当時から研究テーマであり、細胞内蛋白質輸送機構とその異常に基づく疾患の研究を続けさせていたたく所存です。細胞内は、細胞内小器官という、さらに小さな小部屋で満たされています。細胞内で合成された何万種類にも及ぶ蛋白質は、その所属すべき細胞内小器官に運ばれてはじめて本来の機能を発揮します。正常な細胞内蛋白質輸送は個々の細胞の生存に必須であるばかりでなく、神経伝達における伝達物質の放出や、免疫応答における病原微生物の取り込みと分解、それに引き続く抗原提示等、我々人類を含む高等多細胞生物特有の高次機能にも重要な役割を果たします。逆

に、病原体の中には侵入に際し宿主細胞の輸送係を利用するものもあり、またある種のウィルスでは宿主の正常な蛋白質輸送を妨げることでより免疫系から逃れるものも知られております。さらに、蛋白質輸送の障害は一部の糖尿病をはじめとする遺伝性疾患の原因ともなります。このように細胞内蛋白質輸送の研究は、基本的な細胞制御の研究であると同時に、種々の病態を理解し、その治療法の確立にも繋がる研究領域です。微力ではあります。るのほなの名に恥じないよう研究に専心努力する所存です。今後とも同窓会諸先生方のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

最後にになりましたが、金沢は皆様御存知のように加賀100万石の城下町であり、水戸の借楽園、岡山の後楽園と共に日本三名園に数えられる兼六園もございます。また、近郊に温泉郷も点在し、日本海の海の幸も堪能できる有数の観光地ですので、是非お出かけ下さい。

川名悦郎、植村研一、浜松医科大、両教授退官

本学出身の浜松医科大学解剖学第一講座教授川名悦郎先生(昭和33年)、おなじく脳神経外科講座教授植村研一先生(昭和34年)はこの3月で定年退官されることになった。

川名先生は卒業後母校の大学院に入学され草間敏夫教授のもとで研究を始められたが、在学中に草間先生とともに東京大学脳研へ異動され一貫して神経解剖学を研究されている。昭和49年の浜松医科大学開設にあたっては、初代の教授として開学当初から25年間にわたる教育研究に従事され、大学の基礎作りに貢献された。川名教授の最終講義は去る2月12日に行われ、学生だけでなく学内、学外の多くの関係者が集まった。神経解剖学についてご自身の経歴を振り返りながら解剖学上の発見にまつわるいくつかのエピソードを紹介され、最後に医師を目指す者は包容力、忍耐力そして慈愛の心をもっていることが必要であり、そのような医師となるように努力して欲しいと締めくくられた。

植村先生は昭和53年に千葉大学講師から浜松医科大の初代脳神経外科教授として赴任された。故牧野博安名誉教授、牧野筑波大学名誉教授とともに千葉大学の脳神経外科の開設に尽力された。浜松医科大教授を21年間務められ、この間に教室から中島正二先生(前富士宮市立病院院長・昭和34年熊本大卒)、忍頂寺紀章先生(共立菊川病院院長・昭和42年卒)、堺常雄先生(聖隷浜松病院院長・昭和45年卒)の3人が静岡県下の主要病院の院長に就任されている。

植村教授の最終講義は3月19日に行われた。すでに春休みに入っていたが学生を含め学内外の関係者が多数参加された。講義は「脳内記憶機構とその活用」と題し、functional MRIや「浜松方式」として知られる高次脳機能検査などによる新知見を取り混ぜながら記憶のメカニズムをいつもながらの流暢な話術で解説された。

浜松医科大には衛生学の櫻井信夫名誉教授、耳鼻咽喉科学の野末道彦名誉教授、寄生虫学の佐野基人名誉教授が赴任されていたが既に退官されており、これ

で初代の教授であったるのほな同窓会員は皆さん退官されたことになる。浜松医科大も25周年を迎え、一つの区切りの時期になってきているようである。

なお植村教授の後任には千葉県がんセンター脳神経外科の難波宏樹先生(昭54)が選出され、4月1日付けで着任された。当地での活躍を期待したい。

(静岡県支部 昭54 宮本恒彦)

60年目に、大勢集まることは、まず無理でしょうか。万障繰り合わせて御参加下さいとの通知に、光陰矢の如しと驚き、何10年ぶりの友、大阪在住の友まで、2月20日「銀座らん月」に、続々と集まり、35名を数えた。先ず、長澤仁一幹事の司会で、昨年勲二等旭日重光賞を授勲した、寺島東洋三君にお祝いを申し上げ、この1年に永眠された、関俊之、山本博信両君に黙祷、当日の最年長者藤縄君から、一回を代表して、唯一人でクラス会幹事を今日迄お世話下さって居る長澤仁一君に謝辞を捧げ、万場の拍手。乾杯の音頭は、厚生省

元環境衛生局長山中和君に、司会者をお願いしたら、最近 は年寄りの繰り言封じに乾杯の音頭をとらせるのが、流行って居るとのジョークに、座が和らぎ、久しぶりとして自己紹介を全員が始めながらの、献酬で酔う程に50年経った学生時代が今に蘇がえり、2つの丘を結ぶ連絡道路、空襲で破壊された基礎教室、迷彩を塗られ





た、堂々たる病院、名物教授の思い出、クラブ活動等一同20代の若者の瞳の輝きをとり戻し、勉強に一生で一番努力した甲斐があつて、旧制高等学校の入試に合格出来た為に、暖かな友情が得られた、千葉大学医学部

に在学出来た幸せを、泌々と感じた一夜だった。時間はまたたく間に過ぎ、まだまだ元気故、来年は、何時もそこで開業して居られる為、顔が効くとて設営をお願いして恐縮だが、久しぶりに墨田川畔の桜見物花見

船をしたたいと、長澤幹事に懇望して閉会となった。良き友々に健康な長寿を与えたまえと祈りつつ本会の記録を閉じる。  
(参加者) 阿部浩次、石谷治彦、居谷健吾、伊東雅文、大池和祐、大西盛光、奥真

一、賀川興夫、小杉秀雄、小林準三、向後米造、國府田幸夫、小島恒教、佐藤巖、佐藤昇一、田中光、月岡幸雄、月岡道雄、寺島東洋三、長崎邦泰、長澤仁一、中島令一、中村和之、信國英一、野平哲也、橋野堯彦、樋口

豊、菱木達明、藤縄和聰、藤本知明、守岡稔、師尾武安川隆郎、柳澤頼雄、山中和  
(小杉秀雄記)

にあらわれたのかも知れませぬ。  
インターン終了後アメリカで活躍しボルチモアの医師会長を勤めた中沢弘君が久しぶりに愛息を伴い参加したり、車椅子で小田原から駆けつけた志村公男君、体調必ずしも十分でないにもかかわらず山口豊君・相楽恒俊君などの参加に感謝しております。  
なお、いつも元気な姿を見せてくれた上野恭一君が他界し、また病臥中で出席できなかった中野喜久男君が年末に他界されました。心からご冥福を祈ります。

二七会  
(昭27卒)

平成10年秋のクラス会親睦旅行は、10月17・18日の両日にわたり、鍋谷が幹事となって津軽路の秋を探訪した。参加者は24名(うち夫人9名)。午前11時に東北本線三沢駅集合、貸切りバスで焼



山に到着、八甲田牛の焼肉と津軽ワインで乾杯し旅をスタートした。奥入瀬は直前の台風で倒木が多く、早目の紅葉と変化する溪流はすべて車窓からの鑑賞となった。十和田湖では姫鱒の稚魚を見学したが、古稀を迎えた我々に力強い生命力を感じ

させた。宿のシテイ弘前の宴会では、全員の近況報告があり、病気の体験談が身に沁みる年齢となったので、今後は年2回のクラス会を約束した。地酒が好評で痛飲、全員が津軽三味線の二次会へ移動し、深夜に及ぶ若さも残っていた。  
第二日は、弘前市のリング園、最勝院五重塔、旧制弘前高等学校の青春像、弘前城、ねぶた村を見学のうち、バスで青森の三内丸山縄文遺跡を見学した。心配された台風にも見舞われることなく、一同すこぶる元気で夕暮の青森駅で解散した。  
参加者は天野茂、大浜博利・夫人、小川源太郎、小沢昭司・夫人、塩田昭夫、関口和夫・夫人、鍋谷欣市・夫人、服部了司・夫人、橋爪壮、広田和俊・夫人、本間康正・夫人、町沢清太郎、宮川昭平、矢島愛二・夫人、渡辺勲・夫人。(鍋谷欣市)

三一會  
(昭31卒)

このところ毎年一回集まるのが恒例となつている昭和三十一年卒業のクラス会が、平成十年十月二十四日に開かれました。なるべく大勢集まりやすいということから、場所は箱崎インター近くの「ローヤルパ



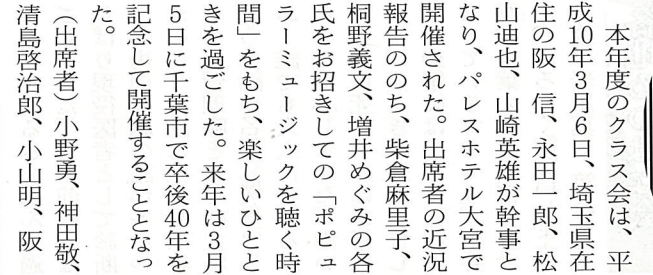
クホテル」にて午後五時より延々十時半まで続くという盛会でした。出席者は後記のごとくで当日になっての予定外出席者もあり、幹事は右往左往したり、嬉しい悲鳴というところでした。我々の時代は戦後の物資欠乏の時代に苦闘してきて、やっと定年を迎える年代に達したという解放感が自然



参加者は次のおとおりです。猪狩好令、庵原照一、上原すず子、海老原雄一、遠藤光夫、小野清四郎、加藤繁夫、川上秀一、相楽恒俊、志村公男、杉山伸子、関博人、関光倫、高野昇、辻輝蔵、徳山輝男、豊田義男、中沢弘、西沢護、西原源太郎、船橋茂、松丸信太郎、水岡慶一、李保文彦、森肇、森博志、山口慶三、山口豊、幹事(森碧、北川定謙)

三五會  
(昭35卒)

本年度のクラス会は、平成10年3月6日、埼玉県在住の阪 信、永田一郎、松山迪也、山崎英雄が幹事となり、パレスホテル大宮で開催された。出席者の近況報告ののち、柴倉麻里子、桐野義文、増井めぐみの各氏をお招きしての「ポピュラーミュージックを聴く時間」をもち、楽しいひとときを過ごした。来年は3月5日に千葉市で卒後40年を記念して開催することとなった。  
(出席者) 小野勇、神田敬清、島崎治郎、小山明、阪





信、榊原秀三、貞永嘉久、沈重博、佐藤重明、嶋田裕、永田一郎、成田静子、野口愷、長谷川鎮雄、久田堯夫、藤村眞示、増田善昭、松山迪也、宮下瑛、谷嶋つね、山崎英雄、岩崎勇未亡人、各務正暉未亡人 (嶋田 裕)



四三卒 (昭43卒)

43卒30周年クラス会  
43卒30周年記念クラス会を平成10年6月21日(日)、ホテル・サンガーデン千葉で開催した。14人の恩師と写真に間に合わなかった高岡(野間)邦子さん、中村衛君を含め59人のクラスメイトが参集した。30周年記念事業としてヨン君の絵画(本紙掲載)を母校に寄贈、30周年記念誌発行が了承された。井出先生はじめ恩師からの話し、各人の近況報告、各テーブルでの歓談に時間は瞬く間に過ぎ、次回



の再開を約して散会となった



た。心残りの人達が2階バイロンでヨン君のピアノを聞き、語らいは夜遅くまでになった。(一瀬正治記)

出席恩師(14人)

井出源四郎、萩原彌四郎、高見澤裕吉、永野俊雄、橋正道、石川清、奥井勝二、嶋村欣一、鍋谷欣市、米澤利英、本間三郎、大谷克己、嶋田裕、高橋英世  
昭和43年(1968)卒業  
青木靖雄、赤井寿紀、赤尾建夫、足立英雄、林雅恵(Yr. Hweil J. C.)、飯田秀治、磯村勝美、一瀬正治、岩間汪美、藤之康、鹿島孝、梶尾高根、神田健郎、川村功、川村健児、北原宏久、野宗寛、栗山喬之、國保能彦、佐藤英樹、佐野元昭、斎藤弘司、立原(徐)蒼子(洋子)、諏訪敏一、鈴木昭一、鈴木秀、Sein Jong、蘭部友良、滝川弘志、千葉彌幸、鳥居(角田)雅江、鳥居敏明、中嶋弘道、中村宏、仲尾清、沼尻志信、柴田皓三、長谷川洋機、藤塚(針ヶ谷)万里子、Palob Charuwan、東絃一郎、藤塚光慶、古山信

小沢俊、玉井(玉)輝章、加藤之康、鹿島孝、梶尾高根、神田健郎、川村功、川村健児、北原宏久、野宗寛、栗山喬之、國保能彦、佐藤英樹、佐野元昭、斎藤弘司、立原(徐)蒼子(洋子)、諏訪敏一、鈴木昭一、鈴木秀、Sein Jong、蘭部友良、滝川弘志、千葉彌幸、鳥居(角田)雅江、鳥居敏明、中嶋弘道、中村宏、仲尾清、沼尻志信、柴田皓三、長谷川洋機、藤塚(針ヶ谷)万里子、Palob Charuwan、東絃一郎、藤塚光慶、古山信



明、星野聡、堀井文千代、堀川義文、松清央、和泉(丸山)佳子、神津(三井)玲子、竜(劉)崇正、盛克己、矢島寿夫、保坂(楊)忠成(伸成)、李思元、和田源司  
43卒30周年前夜祭  
せっかくの30周年記念会を遠方から出席して、1日で終わりの残念であるとの声があり、何人かが千葉に泊まるならと前夜祭を企画した。ニューヨーク2人、タイ1人、沖縄2人、北海道1人、秋田1人と地元勢10人の計17人が中華料理とNYからのモンロー・ワインで、友遠方より来り又楽しからずや、で盛り上がった。写真は下段左から

五三卒 (昭和53卒)



の開催です。学生のおかげで

みの数が増えました。それでも、一言話せば昔と同じ。ムントの時の思い出や、一行書けば許してくれた昔の試験。植木君が肩より長い髪だったあの頃。教室に持ち込んだテレビで見た巨人軍長嶋の引退。なつかしい思い出話に花が咲き、全員二次会へと突入です。本当は次の日にケアマネジャーという在宅介護に大切な資格試験があるとかで勉強しなくちゃいけない人も多かったのに、学生時代と同じ

堀川義文、仲尾清、林雅江、パンロップ、東絃一郎、中段左から中村宏、ヨン・セーシン、神津玲子、和泉佳子、盛克己、上段左から千葉弥幸、藤塚光慶、飯田秀治、沼尻志信、松清央、古山信明、北原宏。(古山信明記)

らまめな人はまめのまま20年経っているようです。50人余りが集合し、沖繩の山城君も国会議員のような風貌で遠くからやってきました。台湾出身の張さんは石垣島で活躍中とのこと。病院ではやり手医長と呼ばれているに違いない太枝君や、まさかこの人が院長になるなんてという塚本君等、りっばな院長・部長・医長になっていて、着てるものも高そうになったし、おなかの周りも膨れていました。開業している女性軍の旧姓、竹内さん、海宝さん、富谷さん、河田さん、西浦さんは相変わらず美しく、大学で貧乏している私とは皺やし

なんとかなるさで飲んで過ぎました。10年前は、ばりばり現役医者として診断や手術の臨床の話が多かったのに、今回は経営や人集めなど管理職としての立場からの話や名刺交換があり、あー誰でも大人になれるんだなと感心しました。幸いなことに死亡の人はまだおらず、のんきに過ごしました。10年後はどんな私達になっているでしょう。新井君、千葉大学の教官の皆さん、よろしく御願います。(文責 岩川真弓 筑波大学)

群馬るのはな会

平成10年11月14日(出)、恒例のるのはな会群馬県支部の総会を前橋市内マリーキュリーホテルで開催し、22名の会員が集合した。  
沖真澄(昭22)会長の開会の挨拶と会務・会計報告があり、会員は67名で本年度は全く移動がなかったこと、また特別会員の群馬大学第一外科の長町幸雄教授が三月退官されたこと、鈴木守(昭39)教授が群馬大学医学部長に就任されたことが紹介された。本年も病





気療養の為に欠席された長老の亀井清安(昭10) 星野真徳(昭13) 北村英吾(昭12) 北川道安(昭15) 鈴木不二夫(昭15) 各先生宛に激励の色紙を送ることに皆の賛同を得た。

次いで来賓の井出源四郎



大きな政治的課題となっていることなど詳細に話して下さいました。またフジサワで発行している「いずみ」11月号に載っている澤田勤也(昭28)先生の随想「記念碑と辛亥革命」についての紹介があった。

次に群馬大学医学部長に就任された鈴木守先生の記念講演「世界の寄生虫の動向」を拝聴する。新興感染症と再興感染症の現況と、マラリア撲滅作戦の現状を大変興味深く話された、なお世界寄生虫学会の会長にも就任され、益々日本のみならず

ず世界的にも先生の活躍が期待される。  
次に田中敬明(昭16)先生の「ヨーロッパを旅して」と題して、東ドイツの美術館、博物館、鵜外記念館を見聞し感激したこと、またドイツはダイオキシソ、C O2等の公害問題はすべて解決しているのには感心しましたと述べられていた。

次に鈴木守教授の医学部長就任の御祝に先生と親交の厚い龍谷大学々長である戸上明道師の揮毫による「二期一会」の軸物一幅を贈呈した。

次で田中敬明先生の御発声で懇親会に移り、自己紹介、近況報告、昔話し、経験談など賑やかに晩秋の宵を楽しく過しました。

締めを井出源四郎先生にお願いし、また来年の再会を約束して散会した。  
写真説明 前列左から 糸井猛彦(昭22) 沖真澄

# 児玉誠博士 頌

桑田次男(昭19年卒)  
室の初代教授緒方規雄先生と、次代の羽生彦左衛門先生の場合には、細菌学教室の主たる研究テーマは恙虫病、あるいは発疹チフスなどの病原リケッチアに関するものであった。他方、本

学の前身千葉医学専門学校の出身で、研究の場を学外に求めて活躍され、リケッチア病の研究に専念された先輩に児玉誠博士がおられた。これまで学内で殆ど知られることのなかった同博士についてここに一文を草して紹介する次第である。  
児玉誠氏は明治二十七年

一月長野県小縣郡和村、現在の東部町に生れた。上田中学を経て千葉医専入学、大正五年七月同校を卒業された。卒業は直ちに北里研究所に入所し、病理部草間滋部長の下で研究生活に入られた。大正九年四月には草間博士が慶應医学部病理学教授となられたため、教

授に従い慶應に転動された。そして大正十二年二月にはドイツに留学し、当時病理学の世界の権威であったフライブルク大学のアッシュ教授、次いでミュンヘン大学のシュピールマイヤー教授の下に学んで、ミュンヘンでは同じく脳組織の研究を行っていた歌人の斎藤

新年度の役員改選を行ない、三枝会長(昭32卒)、森博通幹事(昭40卒)の再任と、松清央幹事(昭43卒)の新任が決まりました。  
懇親会は最長老葉丸比呂志先生(昭16卒 産婦人科)の乾杯のご発声で始まり新入会員の自己紹介(君津中央病院精神科遠藤博久先生、上総記念病院内科中村博敏先生)などあり、和気藹々と楽しいひとときを過ごしました。

年十二月には草間教授の推挙を受けて、当時大連にあった旧満鉄衛生研究所の病理部長として赴任した。  
大連においては初め脳神経系の病理について研究が行われたが、次いで、当時しばしば大きな流行の見られた発疹チフスの病原リケッチアの動物実験に着手した。

## 君津木更津

去る平成11年2月23日(火)木更津富士屋ホテルにて君津木更津のほな同窓会総会が開かれました。本部からは本学小児科教授河野陽一先生をご派遣頂きまして誠にありがとうございました。

総会議事は、三枝一雄会長の挨拶の始めに、今年度逝去された、長谷川正夫先生(昭16卒 産婦人科)、吉田明先生(昭17卒 内科)両会員のご冥福を祈り黙祷いたしました。(なお本年度の総会の後3月9日日本会員影山乾一先生(昭27卒 内科)が逝去されました)会計報告、事業報告および

繰り出し午前様になる寸前でお開きになりました。河野教授には最後まで付き合っていたいただき、誠に申し訳なく深く感謝申し上げます。  
平成11年3月19日  
(君津木更津のほな同窓会平成10年度幹事 田中弘一)

(昭22) 小林けい子(昭50) 保阪亜莉沙(昭48) 平形義人(昭19) 船曳甫(昭25) 中田益允(昭35) 後列左から 斎川俊一(昭23) 本島悌司(昭45) 大塚功(昭27) 鹿山徳男(昭29) 田中敬明(昭16) 小林道生(昭48) 井出源四郎、首村紀夫(昭40) 鈴木守(昭39) 西村忠雄(昭32) 長谷川透(昭29) 中島透(昭56)。長町幸雄特別会員 根本幸一(昭29) 黒岩璋光(昭37)の3名は早退された為写っておりません。  
(西村忠雄記)

河野先生には「最近の小児疾患・食物アレルギーの診断と治療」と題して御講演を頂きました。つい最近の卒業生から57年前の卒業生まで出席会員のすべてが理解でき、且つ学問の神髄に触れることの出来た素晴らしい御講演でした。また最近の大学事情についてもいろいろとご報告をして下さいました。30数年前の臨床講義が妙に懐かしく思い出されて、逆に今の学生さんは大変だなあと変な同情をしてしまいました。

総会議事は、三枝一雄会長の挨拶の始めに、今年度逝去された、長谷川正夫先生(昭16卒 産婦人科)、吉田明先生(昭17卒 内科)両会員のご冥福を祈り黙祷いたしました。(なお本年度の総会の後3月9日日本会員影山乾一先生(昭27卒 内科)が逝去されました)会計報告、事業報告および





それより先、旧千葉医大細菌学教室においては緒方規雄教授、海野幸胤氏によって恙虫病の病原体がウサギの臍丸内接種によって初めて分離、継代に成功された(昭和四年)。児玉博士らは緒方、海野の方法を発疹チフスの病原リケッチアの研究に応用し、安定してその継代(32〜52代)に成功し、病原性、免疫原性に変化の見られないことを証明した。それらの実験結果は当時微生物学の第一級の雑誌であった「Zentralblatt für Bacteriologie」に発表された(1)。

所で、重症例の多い春の発疹チフスとは別に、満鉄沿線各地において晩秋から初冬にかけて散在性に発生する「満洲チフス」と呼ばれた症例のあることは臨床家によっても観察されていた。児玉博士らは満洲チフスの患者からモルモット・ラットなどを用いて病原体分離に成功した。その病原体は実験動物の詳細な観察塗抹標本の所見から病原体がリケッチアの一種であり、それが Mooser がメキシコの「Tabardillo」と言われた地方病の病原体として発表した所謂 Mooser bodies と極めて近似していることを発見した。その「Mooser」その人から「Tabardillo」の病原体に感染したモルモット臍丸莖膜の塗抹標本の贈与を受けて、満洲チフスのそれとを念に比較し両者が全く一致することを確信したのであった(3)。

発疹チフスの病原はその研究中に斃れた二人の研究者 Ricketts と Provasnik を記念して Rickettsia Provasnikii (1916) と命名されたことは周知の通りである。発疹熱の病原リケッチアについては Montreire により Rickettsia mosei (1931) が提唱され、それと相前後して児玉博士らにより manchurial (1931) が提唱された。しかしながら、リケッチアの学名は NIH の支所ロッキー山研究所の Philip の主張 (1931年) が尊重されて、発疹熱の病原リケッチアに関しては Rickettsia typhi (Walbach & Podd, 1920) が valid とされ、 Rickettsia mosei, R. manchurial は共に同義語とされている。

麟也教授と共に恙虫病病原体の研究により同じく浅川賞が授与されている。昭和七年には発疹チフス、満洲チフスの感染経路に関する研究が活発に行われて論文も数多く発表された。所が、昭和八年九月には、当時世評にも上った児玉夫人の行動にかかわる問題で児玉博士は衛生研究所の職を辞した。そして翌九年二月には新しい学問の研究分野であるウィルス学の研究のためベルリン・ダーレムの国立衛生研究所「生物学部」に当時の著名なウィルス学者 Hagen 博士を訪ね、天然痘ウィルスの研究に従事し、Hagen と共著で二篇の論文を Zbl. Bakt. に発表した(4)。

昭和九年十一月に児玉博士はドイツより帰国し、翌年の十一月には草間教授の推挙を得て旧新潟医科大学病理学の川村麟也教授の下で客員研究員として勤務し、川村教授に協力して当時問題であった日本脳炎の病理病因について研究に励んだ。所が、昭和十二年二月に副鼻腔炎の手術を受け、術後不運にも加齢性髄膜炎に罹患して急逝された。享年四十四歳であった。

葬儀にあたり川村教授は次のような弔辞を述べられた。

「君は故草間滋博士の愛弟子として多年病理学研究に精進せられ、幾多の光輝ある業績を挙げおられり。殊に大連衛生研究所にてなせる満洲チフスの研究は白眉にして、本邦医学会を飾るものとして内外より賞讃せられおり」と。

本学の先輩であり、リケッチア研究の先達でもあった児玉誠博士を偲び、ここに顕彰の一文をしたため得たのは私の喜びである。

(平成十一年二月)

附記・児玉博士には欧文和文の論文が七〇篇ほどあるが、紙面の制約上その数篇を左に引用した。

- 1) Kodama, M. & Takahashi, K.: Über die Passagen von Kaninchenheroden und die dadurch hervorgerufene Allgemeinfektion, Zbl. Bakt., Orig. 119, 311-314, 1931.
- 2) Kodama, M. & Takahashi, K.: Zur histologische und bakteriologische Bedeutung des Gehirnerkrankung bei fleckfieberinfizierten Meerschweinchen, Zbl. Bakt., Orig. 121, 32-39, 1931.
- 3) Kodama, M., Takahashi, K. & Kona, M.: On experimental observation of the so-called Manchurian typhus and its etiological agent (Rickettsia manchuriae) Kitasato Arch. exp. Med. 9: 97-133, 1932.
- 4) Hagen, E. & Kodama, M.: Über das Verhalten der Variolavakzine in Mäusen nach Infektion mit Variolavakzine und Virus-Gewebe kulturen, Zbl. Bakt. 1, Orig. 133, 23-1934.

平成11年度 医学部入学者氏名

- |             |            |             |
|-------------|------------|-------------|
| 久保麻衣子 (北海道) | 大野 幸恵 (東京) | 芳賀 高浩 (東京)  |
| 鈴木 快枝 (北海道) | 大平 知美 (東京) | 橋田 知明 (東京)  |
| 木村 昭子 (岩手)  | 小倉 浩史 (東京) | 花村 奈々 (東京)  |
| 目澤 守人 (福島)  | 小柳津智子 (東京) | 東山 文彦 (東京)  |
| 大野 綾子 (茨城)  | 葛城 穂 (東京)  | 平川健一郎 (東京)  |
| 辻 亜矢子 (茨城)  | 鎌田 美保 (東京) | 船越 拓 (東京)   |
| 三好 義隆 (茨城)  | 亀山菜子 (東京)  | 古谷 彩 (東京)   |
| 秋場 美穂 (栃木)  | 唐鎌 千裕 (東京) | 北條林太郎 (東京)  |
| 長井 恭子 (栃木)  | 櫻井 由子 (東京) | 升田 紫 (東京)   |
| 福田 真弓 (栃木)  | 佐藤 健登 (東京) | 間多 祐輔 (東京)  |
| 宮脇 恒太 (群馬)  | 重岡 典子 (東京) | 松村 洋輔 (東京)  |
| 赤羽香奈子 (千葉)  | 柴山謙太郎 (東京) | 宮本 季栄 (東京)  |
| 飯島 栄悟 (千葉)  | 鈴木 まみ (東京) | 山崎 梨沙 (東京)  |
| 石渡 規生 (千葉)  | 仙波 宏章 (東京) | 山舖 陽子 (東京)  |
| 伊良部真一郎 (千葉) | 高鳥 尚子 (東京) | 横尾 英孝 (東京)  |
| 木村 健 (千葉)   | 田島 洋佑 (東京) | 横田 元 (東京)   |
| 白井 利行 (千葉)  | 力石 浩志 (東京) | 吉江うらら (東京)  |
| 高瀬 正幸 (千葉)  | 寺田 和彦 (東京) | 吉澤 智子 (東京)  |
| 永野 秀和 (千葉)  | 内藤 雄介 (東京) | 吉田 陽子 (東京)  |
| 鳩貝 健 (千葉)   | 中道 真仁 (東京) | 李慧 俐 (東京)   |
| 安良岡真理 (千葉)  | 中村 理奈 (東京) | 渡邊 大智 (東京)  |
| 吉田 裕 (千葉)   | 中易 夏子 (東京) | 渡邊 満野 (東京)  |
| 青木香代子 (東京)  | 長岡みどり (東京) | 川島 広稔 (神奈川) |
| 赤沼 直毅 (東京)  | 野口 基規 (東京) | 清水 学 (神奈川)  |
| 安部 元 (東京)   | 野畑 次郎 (東京) | 水堂 祐宏 (神奈川) |
| 井口 美奈 (東京)  | 野見 山淳 (東京) | 田尾 克生 (神奈川) |
| 市村 康典 (東京)  | 野村征太郎 (東京) | 滝澤 朋子 (神奈川) |
|             |            | 古野 敦子 (神奈川) |
|             |            | 宮原 雅人 (神奈川) |
|             |            | 前田 薫 (新潟)   |
|             |            | 樋口 陽 (富山)   |
|             |            | 原田 順哉 (長野)  |
|             |            | 福沢 裕一 (長野)  |
|             |            | 土方 靖浩 (愛知)  |
|             |            | 磯崎 由佳 (大阪)  |
|             |            | 菅 正樹 (大阪)   |
|             |            | 西村倫太郎 (山口)  |



野島 知子(福岡)  
西田 孝宏(鹿児島)

蔡 明倫(台湾)  
NOR ZHAN MAHDI (マレーシア)

### 平成11年度 大学院医学研究科入学者

「環境変異学」陳 崢「感  
染機構学」塩野結子、李白  
樺「真菌分子機能学」Bis  
was Sondip Kumar「地  
域医療学」関根憲「病態生  
理学」新井誠人、鶴飼伸一、  
大久保雄介、大島忠、大野  
博之、大部誠道、奥富善之、  
坂上信行、清水史郎、馬場  
毅、藤井隆之、松本伸行、  
山口和也、山田泰司「循環  
病態学」浅川雅透、萱場祐  
司、櫛田俊一、栗山根廣、  
佐藤素子、浪川進、吉田俊  
彦「呼吸器病態学」阿部雄  
造、天野慎也、新井康弘、  
池田雄次、大西洋一、白井  
拓史、新行内雅斗、玉置正  
勝、船橋秀光、吉田泰司、  
渡邊哲、渡辺励子「精神機  
能病態学」石川裕子、藤崎  
美久、宮城島大「小児病態  
学」尾崎由佳、坂尾詠子、  
武田紳江、安川久美「消化  
器病態学」須ノ内康太、星  
野敏彦、劉天玲「呼吸器機  
能学」芳賀由紀子、星野英  
久、溝淵輝明、横井左奈  
「運動機能学」大塚誠、黒  
川雅弘、洪理江、佐野栄、  
神保純、高森尉之、田原正  
道、丸田哲郎、山下剛司  
「頭頸部機能学」櫻井大樹、

### 卒業生進路

井上淳、大隈信幸、神谷直  
人、清水亮行、山崎多佳子  
「口腔機能学」高橋美恵子、  
浜名孝平、林幸雄、横田剛  
「生理機能学」飯寄奈保、  
石橋史子、稲葉晋、興津由  
美、根橋紫乃、藤井りか、  
蓑輪百合子「発達機能学」  
齋藤武「形態修復学」千明  
信一、山口喜孝、李聖子  
「臓器不全病態学」平野剛  
「免疫発生学」吉川えみ子、  
木村元子、小池順造「分化  
制御学」藤村理紗「発生生  
物学」金子朋未、高田幸  
二郎「細胞治療学」阿久津  
多恵子、和泉紀彦、伊勢美  
樹子、内田裕子、加々美新  
一郎、金森由美子、北川裕  
一、金森由美子、菅原恒美、須  
藤明、高月桂子、高橋成和  
竹尾愛理、竹田治代、藤川  
一壽、古瀬陽子、堀江篤哉、  
森田秀和、湯浅博美「器官  
病態学」笠川隆玄、加藤一  
喜、榊原雅裕、芝崎英仁、  
谷嶋紀行「基質代謝学」松  
島弘典「遺伝子制御学」竹  
内新「認知行動生理学」西  
村幸男「自律機能生理学」窪  
安藤拓志「視覚病態学」窪  
田伸矢、谷合真理子、莫曉

芬「神経機能統御学」堺田  
司「神経機能病態学」加藤  
直子

川上順子、窪田美砂子、窪  
田吉孝、長谷川正和、大森  
直子「救急部」中田孝明、  
安部隆三「東大」内科「浅  
野有紀、岡本明子、三宅敦  
子、松山真人「産婦人科」  
田中誠治「麻醉科」小川誠  
慶「大」眼科「石川果林、  
堀邦子「小児内科」木内英  
東「東大」三内科「清田昇  
泰、東秀「精神科」黒田裕子、  
田中陽子、中村映里奈、山  
家卓也「皮膚科」村野啓明  
東京女医大「二外科」河野  
正寛「糖尿病セ」森田泰正  
「消化器内科」山中大介  
「北里外科」三重野浩朗  
「神戸大精神科」平田俊明  
「山形大」外科「柿本雅浩  
「国立精神・神経七国府台  
病院」加賀谷美穂子、笠置  
泰史「国立東京医療セ」高  
原野草「横浜南共済」所知  
加子「虎ノ門内科」宮本牧  
子「沖縄県立中部」神白麻衣  
子「上尾中央総合」阿部又  
一郎「千葉健生」斎藤文雄  
「旭中央」伊藤史生、鈴木  
崇根「都立荏原」吉田健一  
千葉大大学院医学研究科  
矢野浩二朗

### 人事異動

合格者 99 合格率 87.6%  
参考  
国立  
合格者 4026 合格率 87.1%  
全国  
合格者 7309 合格率 84.1%  
教授昇任  
小児科学  
河野 陽一(昭48)  
外科学第二  
落合 武徳(昭41)  
助教教授より  
助教教授昇任  
医療情報部  
本多 正幸(千理51)  
寄生虫学  
青才 文江(広大48)  
整形外科  
後藤 澄雄(昭48)  
小児科  
佐藤 武幸(昭49)  
講師昇任  
第二内科  
龍野 一郎(昭57)  
産科婦人科  
長田 久夫(昭56)  
小児科  
寺井 勝(昭53)

### 第93回 医師国家試験成績

試験日 平成11年3月20日(土)  
合格発表 平成11年4月22日(木)  
及び21日(日)  
受験者 113

### 千葉県市職員異動

（小児科学助手より）  
第三内科  
高須準一郎  
（内科三助手より）  
冠動脈疾患治療部  
小宮山伸之(昭58)  
（虎の門病院循環器センターより）  
生化学第二  
喜多 和子(千葉50)  
放射線医学  
高野 英行(昭61)  
放射線科  
宇野 隆(昭63)  
整形外科  
山縣 正庸(昭52)  
（整形外科科学助手より）  
歯科口腔外科  
宮 恒男(千院平5)  
他大学  
大野博司(昭58)  
金沢大学教授(がん研究  
所分子薬理)

### 衛生短期大学

学長・野口照義(昭32)  
こども病院  
院長・鳥羽 剛(昭38)  
（医療局長より）  
衛生部技監・恩賜財団千葉  
県済生会派遣  
真家雅彦(昭35)（こど  
も病院院長より）

### 保健所長

安藤由記男(昭40) 市川  
（柏より）  
がんセンター  
武内利直(北大昭54) 医  
療局臨床病理部長(医  
長より)  
伊丹真紀子(昭59) 医長  
（同愛記念病院より）  
木暮勝広(昭63) 内科医  
長(自治医大分子生物  
学より)  
荒木章伸(平2) 病理医  
長(聖路加病院より)  
青柳寿幸(山梨大平2)  
肝外医長(千大より)  
安藤総一郎(平2) 肝内  
医長(千大より)  
荒木 仁(平4) 放射線  
医長(昇任)  
救急医療センター  
小林繁樹(昭54) 脳外主  
任医長(医長より)  
根本有子(鳥大平4) 神  
経内科医長(千大より)  
こども病院  
江東孝夫(信大昭47) 医  
療局長(小児外科部長  
より)  
伊達裕昭(昭50) 医療局  
診療部長(脳外部長よ  
り)  
磯辺真理子(日大昭56)  
眼科主任医長(医長よ  
り)



久保田博昭(平4) 小児科医長(千大より)

循環器病センター  
斎藤学(昭44) 医療局長  
(医療局診療部長より)

鈴木亮二(昭49) 医療局  
診療部長(外科部長より)

小野純一(昭51) 医療局  
診療部長(脳外部部長より)

丹羽公一郎(昭51) 小児  
科部長(主任医長より)

小瀧 勝(昭53) 脳外部  
長(主任医長より)

ピアス洋子(昭57) 外科  
医長(千大冠動脈治療  
部より)

朝比奈真由美(昭62) 神  
内医長(千大より)

井上寿久(昭63) 内科医  
長(船橋医療セより)

鈴木淳也(平2) 麻酔医  
長(国立がんセより)

林 永規(島根平2) 外  
科医長(千大より)

仲野敦子(平2) 医長  
(千大より)

川名浩一郎(平4) 眼科  
医長(昇任)

東金病院  
永原 健(昭60) 医長  
(千大より)

鈴木利也(平3) 内科医  
長(千大より)

千葉市保健所  
石川 洋(昭53) 保健所  
次長(健康管理課主幹  
より)

千葉市保健福祉局  
富山栄人(昭44) 保健福  
祉推進部技監、保健所技  
監兼務(帝京大助教授)

退職  
山中 力(昭35) リハセ  
ンター長

沢田勤也(昭28) 衛生短  
大学長

中川康次(昭36) 循環器  
病センター医療局長

松本博雄(昭34) 循環器  
病診療部長

倉田矩正(昭42) がんセ  
臨床検査部長

松戸市立病院  
るのほな会医師名簿

病院長  
篠原寛休(群大昭35) 整  
外

副院長  
小幡五郎(昭36) 外  
香西 襄(昭38) 心外

診療局長  
藤塚光慶(昭43) 整外  
医療技術局長

渡辺 寛(昭41) 心外  
部長

松島保久(昭47) 内科  
平井康夫(昭50) 消内  
西出敏雄(昭53) 健管室  
長

村山 紘(昭44) 循内  
小島重幸(金大昭52) 神  
内

大野一英(昭47) 外科  
丹野隆明(昭57) 整外  
矢島敏晴(昭50) リハ

大隅 昇(昭59) 形成  
魚住顕正(昭45) 脳外  
芝入正雄(昭46) 集治室  
長

片桐仁一(昭56) 耳鼻  
村山直人(昭54) 泌尿  
田巻勇次(弘大昭42) 産  
婦

林 龍哉(昭42) 小児  
川村健児(昭43) 小外  
喜田善和(昭52) 新児  
萬 伸子(昭54) 麻酔

古関啓二郎(昭54) 精神  
宇津見和郎(昭47) ME  
室長

医長及び医員  
太枝 徹(山形昭55) 内  
木村 亮(昭57) 内  
林 淳 弘(富山昭63) 内

海辺剛志(名大昭63) 内  
時永耕太郎(昭62) 内  
小林 研(平8) 内

川勝千勝子(平10) 内  
柏原俊彦(山平9) 内  
三枝紀子(平6) 循内  
徳弘直紀(日大昭62) 消

化  
齋藤秀一(平1) 消化  
南雲清美(横市昭61) 神  
内

宗像 紳(信大平2) 神  
内

鈴木浩二(札医平3) 神  
内

畠山治子(平7) 神内  
岡村斎恵(平10) 神内  
升田吉雄(昭52) 外

遠藤文雄(昭52) 外  
増田益功(昭55) 外  
尾形 章(昭60) 外

笹田和裕(福井昭63) 外  
小林壮一(平9) 外  
品田良之(昭58) 整外

飯田 哲(昭62) 整外  
堂後隆彦(群大平10) 整  
外

田町誓一(昭49) 脳外  
西山裕孝(昭49) 脳外  
柴田晃一(昭58) 脳外

和田政則(福井平8) 脳  
外

石毛 聡(浜松平10) 脳  
外

永瀬裕三(昭54) 心外  
浮田英生(昭63) 心外  
鈴木敏幸(平2) 耳鼻

下岡恭子(平10) 耳鼻  
和田隆弘(昭54) 泌尿  
岡野達弥(昭55) 泌尿

北川憲一(昭60) 泌尿  
伊澤美彦(名大昭50) 産  
婦  
村山和代(東医大昭56)  
産婦

金子透子(平7) 産婦  
陣内彦良(平7) 産婦  
中村 仁(昭53) 小児

小森功夫(昭57) 小児  
上瀧邦雄(山梨昭61) 小  
児

奥村恵子(平4) 小児  
山本裕子(帝京大平6)  
小児

栗山 裕(昭55) 小児外  
科

山田慎一(平7) 小児外  
科

寒竹正人(昭63) 新生児  
科

坂井美穂(埼玉平4) 新  
生児科

内田由紀夫(昭56) 麻酔  
科

元秀山(昭44) 麻酔科  
鐘野弘洋(埼玉平8) 麻  
酔科

榎原雅裕(金大平6) 麻  
酔科

吉野美幸(平10) 精神科  
井上 淳(平4) 形成外  
科

齊藤 弘(昭21)  
五万七千五百三十六円  
匿名希望 十万円



平成10年度  
第三次常任理事会議事録

日時 平成11年2月24日(水)  
場所 ペリエホール扇の間  
(千葉駅ビル5階)

出席者 井出源四郎、貫洞  
一夫、渡辺武、近藤洋一  
郎、山上健次郎、茂又真  
裕、萩原弥四郎、国井光  
智、笠川猛、長沢仁一、  
小幡裕、柴崎晃、大藤正  
雄、森博志、佐藤甫夫、  
大井利夫、増田善昭、木  
内政寛、伊藤晴夫、税所  
宏光、大沼直躬、鈴木信  
夫、矢野明彦

開会に先立ち、井出会長  
よりご挨拶があり、佐藤  
理事の進行で議事の審議  
がなされた。

議題  
一、秋の叙勲者1名と学内  
昇任者6名を、四金会に  
招待することが審議決定  
された。

二、平成11年度会議日程に  
ついて審議決定された。

三、活性化のための新規事  
業として、同窓会ネット  
ワークの作成、会報の充  
実、学外研究助成、など  
を推進することになった。

四、決算予測についての報  
告があり、財務に関連す  
る諸問題すなわち①積立  
金、②会費、③新規事業  
の財源、について真剣に

討論された。  
報告事項  
一、予算執行状況(中間報  
告)について。  
二、同窓会賞応募状況につ  
いて。  
三、名簿作成進捗状況につ  
いて。  
四、会報関係について。  
五、その他、同窓会館建設  
などについて意見交換が  
あった。

四金会 引き続き同所で、  
四金会が行なわれた。近  
藤副会長の司会で、井出  
会長の挨拶、貫洞副会長  
の乾杯に始まり、和やか  
に歓談の時を過ごした。  
会なかばで、昇任者の先  
生方についてご紹介があ  
り、本多正幸先生(千大  
理昭51)、後藤澄雄先生  
(昭48)、高須準一郎先生  
(昭55)、小宮山伸之先生  
(東農大昭57)、土田豊実  
先生(昭55)よりご挨拶  
や抱負などを伺った。和  
気藹々のうちにも活気溢  
れる会であった。このよ  
うな交流を通じてるのほ  
な同窓会、ひいては千葉  
大学がますます発展する  
ことを期待している。  
(伊藤晴夫記)

報告事項  
一、予算執行状況(中間報  
告)について。  
二、同窓会賞応募状況につ  
いて。  
三、名簿作成進捗状況につ  
いて。  
四、会報関係について。  
五、その他、同窓会館建設  
などについて意見交換が  
あった。

四金会 引き続き同所で、  
四金会が行なわれた。近  
藤副会長の司会で、井出  
会長の挨拶、貫洞副会長  
の乾杯に始まり、和やか  
に歓談の時を過ごした。  
会なかばで、昇任者の先  
生方についてご紹介があ  
り、本多正幸先生(千大  
理昭51)、後藤澄雄先生  
(昭48)、高須準一郎先生  
(昭55)、小宮山伸之先生  
(東農大昭57)、土田豊実  
先生(昭55)よりご挨拶  
や抱負などを伺った。和  
気藹々のうちにも活気溢  
れる会であった。このよ  
うな交流を通じてるのほ  
な同窓会、ひいては千葉  
大学がますます発展する  
ことを期待している。  
(伊藤晴夫記)

報告事項  
一、予算執行状況(中間報  
告)について。  
二、同窓会賞応募状況につ  
いて。  
三、名簿作成進捗状況につ  
いて。  
四、会報関係について。  
五、その他、同窓会館建設  
などについて意見交換が  
あった。

報告事項  
一、予算執行状況(中間報  
告)について。  
二、同窓会賞応募状況につ  
いて。  
三、名簿作成進捗状況につ  
いて。  
四、会報関係について。  
五、その他、同窓会館建設  
などについて意見交換が  
あった。

報告事項  
一、予算執行状況(中間報  
告)について。  
二、同窓会賞応募状況につ  
いて。  
三、名簿作成進捗状況につ  
いて。  
四、会報関係について。  
五、その他、同窓会館建設  
などについて意見交換が  
あった。

報告事項  
一、予算執行状況(中間報  
告)について。  
二、同窓会賞応募状況につ  
いて。  
三、名簿作成進捗状況につ  
いて。  
四、会報関係について。  
五、その他、同窓会館建設  
などについて意見交換が  
あった。

報告事項  
一、予算執行状況(中間報  
告)について。  
二、同窓会賞応募状況につ  
いて。  
三、名簿作成進捗状況につ  
いて。  
四、会報関係について。  
五、その他、同窓会館建設  
などについて意見交換が  
あった。

報告事項  
一、予算執行状況(中間報  
告)について。  
二、同窓会賞応募状況につ  
いて。  
三、名簿作成進捗状況につ  
いて。  
四、会報関係について。  
五、その他、同窓会館建設  
などについて意見交換が  
あった。

報告事項  
一、予算執行状況(中間報  
告)について。  
二、同窓会賞応募状況につ  
いて。  
三、名簿作成進捗状況につ  
いて。  
四、会報関係について。  
五、その他、同窓会館建設  
などについて意見交換が  
あった。

報告事項  
一、予算執行状況(中間報  
告)について。  
二、同窓会賞応募状況につ  
いて。  
三、名簿作成進捗状況につ  
いて。  
四、会報関係について。  
五、その他、同窓会館建設  
などについて意見交換が  
あった。

報告事項  
一、予算執行状況(中間報  
告)について。  
二、同窓会賞応募状況につ  
いて。  
三、名簿作成進捗状況につ  
いて。  
四、会報関係について。  
五、その他、同窓会館建設  
などについて意見交換が  
あった。





平成11年度  
第一回常任理事会議事録

日時 平成11年4月28日(水)  
16時〜17時30分  
場所 ペリエホール扇の間  
出席者 井出源四郎、貫洞一夫、国井光智、沖真澄、笠川 猛、萩原弥四郎、山上健次郎、越川 衛、長沢仁一、渡辺 武、小幡 裕、柴崎 晃、大藤正雄、三枝一雄、近藤洋一郎、阪 信、佐藤甫夫、嶋田 裕、増田善昭、木内正寛、中島祥夫、鈴木信夫、大沼直躬  
開会に先立ち井出会長より挨拶があった。

承認され、総会で提案することになった。  
五、新規事業を推進するにあたり会費値上げが必要で全国各大学の同窓会費の資料を参考に審議し、会費を五千円に値上げすることを総会に提案することになった。  
六、名誉会員として、藤村眞示先生、近藤洋一郎先生、米満 博先生、若新政史先生が推薦され承認された。  
七、名誉会員および昇任者の四金会招待の件が計られた。  
八、総会(六月、千葉開催)議案が確認された。  
九、同窓会賞選考結果の報告があり承認された。  
功労賞  
川崎富作先生、谷川久一先生、栗原 稔先生  
学術賞  
下山恵美先生、青才文江先生、中野裕康先生、鶴澤一弘先生  
報告事項  
一、同窓会名簿作成作業の進行状況につき説明があった。  
二、同窓会報の一部カラー化をめざしている旨説明があった。  
四金会  
引き続き同所で四金会が行われた。(大沼直躬記)

「病院長再任の挨拶」  
山浦 晶(昭40卒)

平成11年4月付けで病院長再任の重任を拝命した。この機会に、この2年間を振り返り、さらに21世紀に向けて抱負の一端を紹介させていたきたい。  
「この2年間を振り返って」平成9年4月に始まる2年間は、国立大学医学部附属病院(以下、国立大学病院)にとってもきわめて困難な時代への序奏であったと感じている。病院長就任と同時に、国立大学の民営化が大きな話題になった。日本全体をおおむね経済状況の悪化といっこうに進まぬ大学改革が、国立大学を民営化せよという声になった。むろん病院も含めた話である。やがて民営化の声に代わり、独立行政法人化(エージェンシー化)せよの波が押し寄せた。幸い、5年間の猶予がひとまず与えられたことは、各メディア等で周知のことと思う。  
院内にあっては、国立大学病院の使命である教育・研究・医療をさらに押し進めるだけでなく、これらが良好な経営と運営基盤に立ち、医療は患者本位のものであることが強く求められており、病院の経営・運営

患者サービス等の改善に全職員で取り組んできた。  
○査定率は、職員の意識の向上が効を奏し改善が見られ、本年度は恒常的に0.8%を維持する目標を立てる。  
○病床は各科固有の考えを改め、72時間ルールにより空いていけばどの病床も利用できるようなった。これまでの歴史を考えれば画期的な改革である。  
○行政サービス向上推進委員会を強化し、一層の患者サービスをすすめる。本年よりボランティアを受けることとする。  
○3つの病院長諮問委員会の発足、病院経営改善委員会(伊藤晴夫委員長)、病床管理委員会(増田善昭委員長)、手術室活性化委員会(中島伸之委員長)により格段の運営改善を期待したい。

○看護体制について、これまで一人の婦長が80床を管理していたが、4月より45床に一人の婦長体制として、より配慮の行き届いた看護を提供する。一方、職員の待遇研修を行い、その効果がすでに評価されている。  
○HIV対応のカウンセラーを全国国立大学病院に先駆け採用した。  
○医療福祉部を設置し、部長を服部神経内科科長とした。  
○朝の病院坂の渋滞は、病院内駐車場の整理等により解消した。  
院外にあっては、42国立大学病院病院長会議の常置委員長をつとめているが、時代を反映して病院長会議も極めて緊張度の高い会議となった。文部省医学教育課のご指導の下に、民営化・独立行政法人化に対する意志の統一をはかりつつ、平成10年度末までに以下の大きなプロジェクトがまとめられた。  
○国立大学病院の現状調査  
「国立大学病院の今日」発行。平成10年6月調査をもとに、特定機能病院として高度医療の提供、教育研究機関と臨床研究の場、教育病院としての活動をアピール。  
○診療情報の提供に関する指針(ガイドライン)作成。  
患者・家族からの個人情報提供に関して、診療情報を医療提供者と患者が共有すること、質の高い医療の実現、信頼関係・患者の意志決定・治療効果向上を目指すこと、(編集部からの依頼が遅れたため、最終面に掲載となりました。おわび申し上げます)

教室紹介  
歯科口腔外科学講座  
教授 丹沢 秀樹(昭57卒)

私共の教室は昨年、お陰様で、80周年を迎えることができました。この間に諸先輩、皆様から頂戴したご厚情に心から感謝申し上げます。私共の教室は、入戸野賢二先生、中村平蔵先生、金森虎男先生、佐藤伊吉先生という、日本の口腔外科学会の恩人といふべき先生方にご指導を頂いた草分けの教室です。その後、堀越達郎先生、佐藤研一先生と受け継がれ、平成9年夏からは丹沢秀樹が教室をお預かりしています。私共の教室からは多くの人材が輩出しました。関連大学は北海道医療大学、福島県立医科大学、獨協大学、日本大学があり、また、関連病院は11病院1診療所を数えております。  
医学部学生に対する教育にしましては、歯科、口腔領域の知識を修得してもらうことばかりではなく、医学の周辺領域を紹介し、視点の高い、視野の広い医師をめざして努力してまいります。歯科医師の卒業臨床研修にしましては、一般歯科診療技術と歯槽骨外科を2年間で修得すること、さらに、立派な歯科医師として、社会人として独り立ちできるように、特に家庭的な教育を心掛けています。研究につきましては、従来からの骨代謝、骨移植、腫瘍の基礎と臨床研究等を、近年、生化学的・分子生物的手法で発展させています。その中でも特に、高度先進医療として、1、「口腔悪性腫瘍のDNA診断とその臨床応用」、2、「難治性慢性顎骨髄炎の抗毒素療法」、3、「唇顎口蓋裂の遺伝子診断と遺伝子治療」の開発を行っています。いずれも、従来の外科の概念を超えた、予防医学的、基礎医学的理論と手法を臨床応用しようというものです。まだまだ発展途上ではございますが、皆様のご支援・ご助力をお願いいたします。

平成11年度千葉県のはな会総会御案内  
日時 平成11年5月29日(土) 15時より  
場所 千葉県成ホテル  
043-222-2111



千葉大学医学部同窓会るのな会編集委員会名簿

委員長	鈴木 信夫	昭47	大学
元委員長	井出源 四郎	昭19	大学
前委員長	嶋田 裕	昭35	大学
委員	北原 宏	昭43	大学
	白澤 浩	昭57	大学
	山本 達郎	昭57	大学
	幡野 雅彦	昭57	大学
	古関 明彦	昭61	大学
	野村 文夫	昭50	筑波
	青木 謹	昭36	千葉
	藤森 宗徳	昭37	千葉
	柳橋 雅彦	昭46	千葉
	小川 源太郎	昭27	東京
	服部 了司	昭27	東京
	矢野 浩二郎	平11	大学
医学部学生委員	栃木 直文	G 6	
	赤荻 悠一	G 4	

千葉大学医学部同窓会るのな会役員名簿 (本部)

会長	井出源 四郎	昭19	大学
副会長	貫洞 一夫	昭22	東京
	近藤 洋一郎	昭33	大学
	渡辺 武	昭27	千葉
常任理事	伊藤 晴夫	昭39	大学
	大池 和祐	昭24	東京
	大沼 直躬	昭42	大学
	大浜 博利	昭27	千葉
	沖 真澄	昭22	群馬
	小幡 裕	昭28	東京
	木内 政寛	昭39	大学
	熊谷 信夫	昭28	長野
	香田 真一	昭31	千葉
	越川 衛	昭23	千葉
	小杉 秀雄	昭24	東京
	税所 宏光	昭40	大学
	三枝 一雄	昭32	千葉
	阪 信	昭35	埼玉
	佐藤 甫夫	昭35	大学
	柴崎 晃	昭28	栃木
	嶋田 裕	昭35	大学
	鈴木 信夫	昭47	大学
	富田 裕	昭30	神奈川
	長沢 仁一	昭24	東京
	中島 祥夫	昭46	大学
	中村 武	昭20	静岡
	福田 康一郎	昭41	大学
	増田 善昭	昭35	大学
	三井 静	昭38	山梨
	三宅 和夫	昭21	茨城
	茂又 眞祐	昭22	千葉
	森 博志	昭31	千葉
	矢野 明彦	昭47	大学
	山浦 晶	昭40	大学
	山上 健次郎	昭17	東京
会計監事	笠川 猛	昭22	東京
	国井 光智	昭21	千葉
参 与	大藤 正雄	昭29	大学
	岡本 昭二	昭27	大学
	萩原 彌四郎	昭23	大学
代 行	大井 利夫	昭35	栃木
	冠木 徹彦	昭40	埼玉
	坂田 早苗	昭34	栃木
	佐藤 忠夫	昭29	茨城
	斯波 隆	昭30	静岡
	清水 天	昭39	山梨
	高橋 柳子	昭32	神奈川
	平形 義人	昭19	群馬
	宮坂 斎	昭42	長野
	望月 俣	昭28	静岡
	本島 悌司	昭45	群馬

新名簿 (二〇〇〇年度版)  
 発行予定 平成11年11月  
 価格 3000円 (送料を含む)  
 規格 A4変型版  
 未だ予約をされていない方は、同窓会事務室までご連絡下さい。振込用紙を送付致します。

お知らせ  
 るのな同窓会事務局では、卒業年次別クラス名簿リスト、地域別会員リストおよび郵送用住所ラベルをご希望により作成いたします。詳細は同窓会事務局にお問い合わせ下さい

お く や み

- 百瀬 孝男 (昭6)
- 細谷 玄太郎 (昭14)
- 新藤 清司 (昭16)
- 長谷川 正夫 (昭16)
- 越川 英夫 (昭16)
- 桐 達次 (昭16)
- 伊藤 退助 (昭19)
- 伊賀 多朗 (昭22)
- 木村 隆吉 (昭22)
- 丸山 正鷹 (昭23)
- 関 俊之 (昭24)
- 山本 博信 (昭24)
- 小坂 耕二 (昭24)
- 倉持 邦雄 (順大26)
- 中 幸一 (昭28)
- 上 恭一 (昭31)
- 藤野 洋一 (昭40)
- 松田 武美 (昭47)

編集後記

編集委員を任命されて、はや6年となりました。この間、編集委員長の嶋田裕先生そして鈴木信夫先生の努力により紙面もますます斬新さを加えるようになって来ました。学外の方々にはこの同窓会報が唯一の情報源であり、小生のように読むたびに大学での生活が思い出され、また大学の諸情勢を新たに知る機会も多いのではないのでしょうか。さて、117号で御案内したように「るのな同窓会報」の歴史についてそろそろまとめる時期に来ているので

はないかと、編集委員として考えるところです。発行当初は学生主体によるものからと聞き及んでいます。小生も昭和45年に学生編集委員長として関与させていただきました。過去に発行された会報を紐解きながら座談会を企画するのも案かと考えます。この企画によって同窓会のさまざまなエピソードや裏面史が浮き彫りにされることを期待したいところです。

(柳橋雅彦・昭46)

